



発行所 鹿児島県姶良郡姶良町役場
発行人 岩根清春 編集人 梅木逸郎

(印刷所)
キング堂印刷所

町の人口動態
(3月31日現在)

世帯数	9,048戸	(+30)
人	13,109人	(-22)
口	14,791人	(-73)
計	27,900人	(-95)

3月の	出生	21人
	死亡	17人
	転入	460人
	転出	560人



足もとに気をつけてね

今日の日を生涯の想い出に

結婚五十年おめでとうございます。
一口に、五十年とは言うものの、半世紀を、夫婦仲睦まじく生きぬいてこられた記念の日であります。

長い人生の中では苦しい時、悲しい時、楽しい時等、数々の試練を乗り越えてこられたシワの数、肌の色つやが顔面に出ています。

夫婦揃って、合同金婚式に出席できるカップルは、日頃の健康に常に注意し合っている夫婦であろう。

今日の日を、生涯の想い出にと夫婦手をとり合って「足元に気をつけやんせよ」「ババ、手を貸せつめ」等、五十年前の結婚式とは大部、勝手が違つて、身動きの気敏さこそなくなつてゐるもの、夫婦の糸は根深く延び、二回目の結婚式を迎えた様子は、うれしさに満悦されていました。

これから先、仲睦まじくダイヤモンド婚を目指し、一足一足と近づいてほしいものです。

たたかれて、この郷土をさらに豊かな明るい
町として発展させるため、長期的な
低経済成長期の中で英知を結集
して当面する現実的な課題と真剣
に取り組み心氣一転新たな情熱と
勇気をふりおこし、最大限の努力
を傾け稔りある年となるよう念願
するものです。



はじめに

町長に就任して以来はや三年目
を迎えた。

私は、就任以来施政の基本目標
を「町民がひとしく豊かで生きが
いのある郷土の建設」におき日夜
こん身の努力を重ねてまいりました。
た。

この郷土をさらに豊かな明るい
町として発展させるため、長期的
な低経済成長期の中で英知を結集
して当面する現実的な課題と真剣
に取り組み心氣一転新たな情熱と
勇気をふりおこし、最大限の努力
を傾け稔りある年となるよう念願
するものです。

昭和52年度 施政方針

経常経費を抑制し

六共事業に投資 (建設・教育)を重点施策に

三月十一日開会された第一回定例町議会で、岩根町長は就任三年目の昭和五十二年度の町政に対する所信の一端を表明し、各予算の概要について説明しました。

四本の柱を重点

建設 生活道路を中心 建 住宅不足も解消

長期的経済不況の中でも本年は特
に旧年から引き続いている地方財
政の財政不足を補填し行政の簡素
化や年々高騰する人件費等の抑制
に努め、経常経費を圧縮し、公共
事業の投資的経費の増大に努め、
景気回復をめざしてまいりたいと存
じます。

昭和五十二度の重点施策とし
まして

①道路の整備と都市計画・環境整
備の促進

②教育の振興と文教施設の整備
③産業経済の振興と基盤整備事業
の促進

④社会福祉の充実

以上の四項目を国・県の予算編
成方針・地方財政計画に充分配慮
しながら見込み得る財源を計上し
必要な措置を講じてまいりたいと
存じます。

当初予算には計上できませんで
した辺地債対象事業は昨年度に引
き続き起債の動向等を検討しなが
ら補正予算に計上し実施してまい
ります。

岩根町長は就任以来道路
の整備を毎年重点施策としてとり
あげてまいりました。

町道の舗装率も五十八%に達し
ましたが、本年度も引き続き道路
整備を重点に取り入れ、精力的に
努力してまいりたいと存じます。

昨年政府が景気対策としまして
市町村道路整備事業債を設け道路
整備を重点に組み入れ道路整備に
努めてまいりましたが本年度も引
き続き設けられますので道路の舗
装等の充実を図ってまいりたいと
存じます。

国道十号線のバイパス着工、日
豊本線の電化復線化の問題、県道
の改良舗装、生活道路の問題等積
極的に推進してまいりたいと存じ
ますので、用地等を含めて町民各
位のご協力を願いたいと存じます。

以上は、岩根町長の就任以来の主
な政策と実績です。

今後は、町民の皆様の意見を聞き
ながら、より良い町づくりを目指す
ことを心がけてまいります。

りたいと存じます。

公共都市下水道の整備は将来の
計画にまついたしまして、商店
街の污水、工場廃液、生活污水等
の排水路の設置に本年度は最少量

育

増改築を中心
危険校舎の

教 増改築を中心
幼稚園も検討

※教育の振興と文教施設の整備
青少年の健全な育成は一日もゆ
るがせにできない、われわれに課
せられた重要な責務であると信じ
家庭、学校、社会のあらゆる領域
場を通じて、そしてまた、生涯の
各段階において、社会連帯のも
とに教育、文化活動の機会と場を
拡充するため一層の努力を傾ける
所存であります。

今年度は昨年に引き続き施設設
備の充実に努めるために特に危険
校舎の改築、生徒増による教室の
増設、視聴覚教育の進展等に努め
てまいりたいと存じます。

始良地区視聴覚協議会の育成、
教育方法の改善、緑の教育の推進
教職員の資質の向上に資し、正し
い判断力、豊かな情操、体力の向
上に努め生徒指導の充実に努めて
まいりたいと存じます。危険校舎
解消のために帖佐中学校、重富中
学校の増改築工事の所要額をそれ
ぞれ予算に計上いたしました。

幼児教育において、南地域
の人口増に応募者が毎年増加し取
容しきれない状況にあります。昨
年は建冒幼稚園を緩和するため、
帖佐幼稚園(定員八十名)を設置
いたしましたが、それでも追いつ
かない状況にあります。今後は私

立幼稚園や、保育園の立地を考え検討しなければならないかと存じます。

社会教育、保健体育におきまして設備の整った公民館を本拠として住民の生涯教育を期するため、各種の学習、会合、講演等を積極的に開催し、文化の交流、組織の強化、資質の向上に努めてまいりたいと存じます。

保健体育の面につきましては、指導体制を確立し校区体育振興会、体育協会の強化、充実を図り町民の仲間づくり、連帯意識の高揚、体位の向上に努めたいと存じます。そのため弓道施設の経費一千円を予算に計上し、これらの実現に努めたいと存じます。

学校開放運動を積極的に推進しスポーツ青少年団の育成、スポーツ教室の開設、リーダーキャンプリーダー講習会等を開催し、町民総参加のもとに、努力してまいりたいと存じます。

やる気のある農家

業育成

産高齢者に和牛貸付

制度も設定

*産業経済の振興と基盤整備事業の促進

石油ショックを契機として、農業生産資材価格が上昇し、農業経営に大きな影響を及ぼし、このため国民食料の総合的供給体制の確立、農業構造の根本的転換を迫ら

ります。

労働力の流出、農外所得依存の傾向が増大しているなかで、農家所得の確保、農家経営の改善、中核農家の育成等に力を入れ、「やる気のある農家」の育成に努めてまいりたいと存じます。

本町が第一次、第二次農業構造改善事業の実施を通じ農地基盤整備や農業の機械化、近代化を進め水稲鶴、施設園芸、畜産（和牛養豚）養蚕を中心として、各種施設の整備や協業化、団地化を推進してまいりました。

これらの各種の施設投資に対する利子補給を継続し、各農家の経営の安定化を図つてまいりたいと存じます。

本町の農産物の生産量において米がその中心を占めていますので特に基盤整備地区においては増産を図るため堆肥作りを奨励し、併せて品種改良による良質米づくりに努めたいと存じます。

農用地賃貸借促進事業も農業委員会の協力のもとで「やる気のある農家」に対して農地のあつせんを強力に推進してまいりたいと存じます。

水田総合利用対策事業も国の施策に呼応して推進してまいります。更に畜産の振興のために和牛生産素牛購入資金を町単独で農家に貸付ける制度を設定しました。

和牛、養豚等の一頭二頭飼いも多頭飼育と併せて奨励し、飼料作

物の増産に努めてまいりたいと存じます。

本町の北地域の農業振興の中核ともいうべき、農村生活環境総合整備事業を昨年度に引き続き実施してまいりたいと存じます。

生活改善センターの加工施設と農村集落道路の整備を図るために所要の予算を計上しました。

耕地関係におきましては始良地区県営は場整備事業、農地保全事業、農道農業施設の整備に全力を尽し、早期完成に努力してまいりたいと存じます。五十二年度の第三期工事は、寺師地内県道有川菖蒲生線以北九ヘクタール、永瀬住吉地内三十二ヘクタール計四十一ヘクタールを着工いたします。

県営山元地区農地保全事業は三年継続事業として五十年度に着工され、最終年度になりますが、本年度は保全事業の排水路千三百二十二戸、関連事業の農道五百六十戸施工いたします。五十二年六月も施工いたします。

発生の耕地災害復旧事業も早期完成するよう努力してまいります。

林業構造改善事業は森林組合と連携を保ちながら今年度も幹線林道の開設、作業道の開設等引き続き実施してまいりたいと存じます。

本年度林道新設は八百八十戸を計画しております。林業構造改善事業によって林業経営の高度化を推進してまいりたいと存じます。

商工観光については、商工会館も完成しましたので商工会と連携

福祉老人病対策も

※老人、心身障害者、低所得者層等社会経済的弱者対策の問題

眞の福祉社会は経済的豊かさにとどまらず福祉する心の人間的ふれ合いの中ですべての福祉があると信るのであります。

社会福祉、保健医療、特に老人や心身障害者、母子家庭など、社会的経済的に弱い立場にあるかたがたに対し、自立と生きがいの助長に努める所存であります。

福祉に欠ける人達との対話を通じ助成措置を講じ、本町における出生児には誕生証書を呈し誕生を祝福します。

老人福祉については「老人のための明るいまち推進事業」を積極的に推進して老後の生活が送れる福祉のまちづくりに努力してまいりたいと存じます。そのための三つの事業を推進いたします。

①ねたきり老人、ひとり暮らし老人のために、寝具リース、移動入浴車サービスを行います。

②健康老人の生きがい対策として老人図書館の開設、老人趣味学級、老人広場の開設、老人大会及び合同金婚式を開催し、長寿をお祝いします。

③老人と心のかようまちづくりのために、明るいまちニユースの發行、シルバーベンチの設置をし、またボランティアスクールを開設し、奉仕者を養成いたします。

児童福祉については保育園の入園希望者が増えていますが、保育園に欠ける対象者について今後研究してまいりたいと存じます。

保健衛生面では成人病を中心には母子保健対策と合せて予防対策に力を注いでまいりたいと存じます。

総務管理体制の確立

個々の職員が役場行政機構の一員であることを自覚し、規律正しい服務を厳正にし、与えられた職務に熟達し情報の伝達が有機的に活動するよう管理体制の確立を図つてまいりたいと存じます。

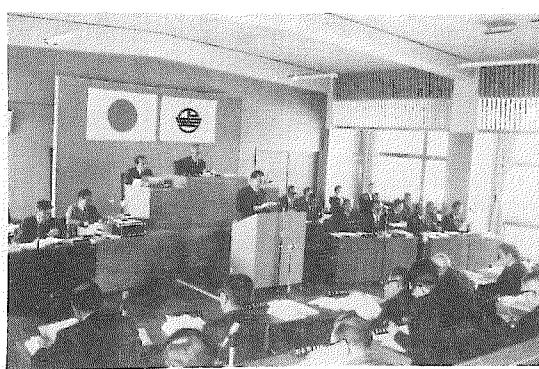
研修機会をとらえ積極的に参加させ適材適所主義を貫きたいと存じます。

交通安全対策は交通安全宣言町として関係機関と連携を密にしながら交通安全の防止に全力をかたむけてまいりたいと存じます。

交通危険箇所には信号機、道路標識、反射鏡、ガードレールの設置を進めています。

企画関係につきましては本町の立地条件、特殊性に立脚して将来の展望にたった計画導入等を進めています。

消防車の買替えにつきましては三台を予定していましたが、補助の動向等を見きわめながら補正予算に計上いたすことによりました。



第1回定例町議会

新年度予算きまる

総額は二十六億七千百円

教育施設の充実に重点 生活道路の整備を改正する条例等三十一件が原案どおり可決されました。

和牛生産素牛購入資金貸付条例制定される

可決された議案の主なものは次
会期で開かれ昭和五十二年度各会計予算、町営住宅管理条例等三十一件が原案どおり可決されました。
第一回定例町議会は三月十一日から三十一日までの二十一日間の
のとおりです。

○和牛生産素牛購入資金貸付条例の制定

岩根町長

六十歳以上の高齢者
を優先に貸付限度額三十
万円を五年間無利子
で貸付け和牛生産雌牛
の増殖及び畜産の振興
を図り高齢者の福祉の
向上に努めるものです。

○始良町災害弔慰金の支給及び災
害援護資金の貸付けに関する条
例の一部改正

暴風、豪雨等の自然災害により
死亡した町民の遺族に対する災害
弔慰金、並びに自然災害により被
害を受けた世帯主に対する災害援
護資金の貸付額が引き上げられた
ものです。

○始良町国民健康保険直営診療所
使用料並びに手数料徴収条例の
一部改正

歳入、歳出それぞれ一億四百四
十九万円を追加し、昭和五十一年
度の予算総額が二十六億五百六十
円となりました。

補正された主な費目は諸支出金
の公有財産購入費であり、船津の
町総合グランド予定地、帖佐幼稚
園敷地、西田公営住宅敷地、帖佐
中横町有地進入路敷地及び国有地
の購入費として一億二百八十七万
円、総務費の総務管理費一千一百四
十五万円、この中には文書公報用
の複写機の備品購入二百七十五万
円が含まれています。土木費の道
路橋梁費四百八十六万円、民生費
の老人医療扶助費として、四百万
円等が主な補正の内容です。

○始良町消防費じゆつ金条例の一
部改正

歳入の主なものは国県支出金、
地方債、その他の特定財源、一般
財源からなっています。

は障害を受けた場合に遭難に授与
される賞じゅつ金の額を引き上げ
たものです。

○町道路線認定

平松二路線（大園原線百八十五
㍍、平松原団地線百五十二㍍）

東餅田一路線（東二角線百九㍍、下
楠木線（百六十㍍）、鍋倉一路線（

宇都焼山線三百四十㍍）、上名一路
線（叶松線五百四十四㍍）の六路線

が認定されました。

○昭和五十一年度一般会計補正予 算（第六号）

歳入、歳出それぞれ一億四百四
十九万円を追加し、昭和五十一年
度の予算総額が二十六億五百六十
円となりました。

歳入の主なものは国県支出金、
地方債、その他の特定財源、一般
財源からなっています。

億七千百万円で前年度の二十億五
千百万円に比べて三十・二八%の
増となっており歳入につきまして
は依存財源が七割を占め、自主財
源は三割弱になっています。

歳入の主なものは国県支出金、
地方債、その他の特定財源、一般
財源からなっています。

歳入の首位を占めるのは前年同
様依存財源の地方交付税八億七千
万円でありついで町税、国庫支出
金、地方債の順となっています。

一般財源の内訳をみると自王
財源の町税（町民税二億三千七百
万円、固定資産税一億九千二百六
円等）が五億三千三百六十九万円
で前年度より二十六%の伸びを示
しています。

地方債（町債）が歳入の上位を
示しているのは教育施設の充実、
都市計画事業、道路整備事業等の
起債によるものです。

歳出では前年度豪雨で被害を受け
た公共土木施設の復旧工事費一億
三千八百五十一万円の災害復旧費
が前年度にないものです。歳出の
主なものは全体の二十%を占める
土木費で前年度から引き続いている
る国の影気対策の一環としての実
施をしている道路整備事業が今年
度も大きな分野を示しています。

また町民の要望にこたえるため
の公営住宅二十戸の建築費一億二
百六十五万円、都市計画事業の第

今年度の当初予算総額は二十六
億七千百万円で前年度の二十億五
千百万円に比べて三十・二八%の
増となっており歳入につきまして
は依存財源が七割を占め、自主財
源は三割弱になっています。

歳入の主なものは国県支出金、
地方債、その他の特定財源、一般
財源からなっています。

十九万円、南宮島土地区画整理事業九千三百十四万円等がそれぞれ計上されています。
教育費では危険校舎増改築工事（帖佐中一億七千九百七十八万円重重中一千三百七十六万円）が含まれています。

民生費では老人医療費に一億一千六百二十二万円、老人のための明るいまち推進事業に六百三十万円、私立保育園関係に六千二百六十三万円等であります。

農林水産業費は前年度からの継続事業の農村生活改善センター事業三千六百七十七万円、町有林並びに公團造林整備事業一千九十七万円、今年度新しく防災ダム調査費一億四千四百万円、林業構造改善事業の生産和牛素牛貸付金三百万円が計上されています。

国民健康保険特別会計事業勘定

歳入、歳出それぞれ七億五百十萬円となり、前年度より一百九十六万円増となっています。

歳入におきましては国庫支出金が七千五百弱の四億八千三百四十万円、保険税の一億九千六百八十六万円となっています。

歳出面は老人医療費の無料化、

高額医療費支給制度の実施等で保険給付費が、六億五千九百四十二万円で、全体の九十四%を占めています。

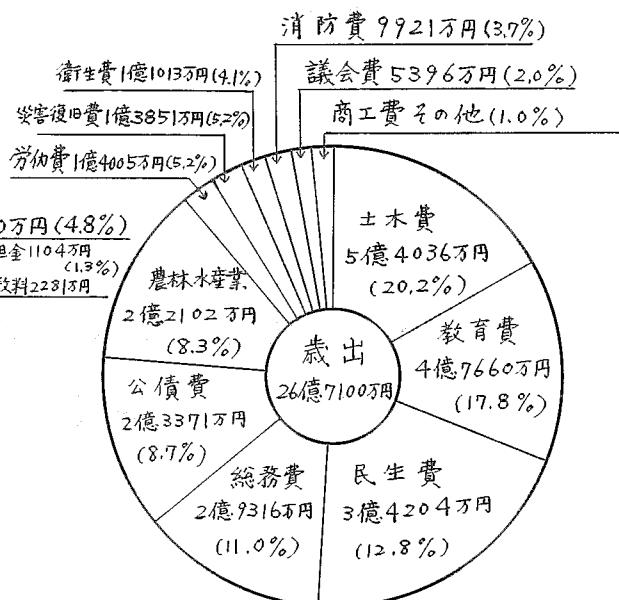
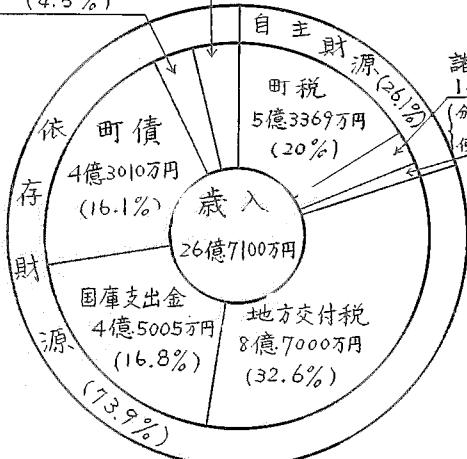
教育費では危険校舎増改築工事（帖佐中一億七千九百七十八万円重重中一千三百七十六万円）が含まれています。

民生費では老人医療費に一億一千六百二十二万円、老人のための明るいまち推進事業に六百三十万円、私立保育園関係に六千二百六十三万円等であります。

農林水産業費は前年度からの継続事業の農村生活改善センター事業三千六百七十七万円、町有林並びに公團造林整備事業一千九十七万円、今年度新しく防災ダム調査費一億四千四百万円、林業構造改善事業の生産和牛素牛貸付金三百万円が計上されています。

(財産収入 4768万円
地方譲与税 3461万円 (3.9%)
自動車取得税交付金 1900万円
交通安全対策特別交付金、その他200万円)

県支出金 1億2082万円 (4.5%)



町が晴れの 全国表彰 町民協力のあらわれ

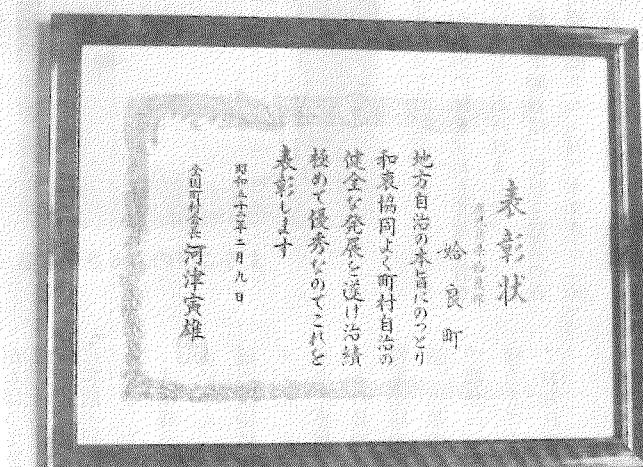
昭和三十一年一月一日
旧帖佐町、富村の三ヶ山村、重良町として始良町となつてから二十一年余りになり

ますが、これまで歩いた町村が合併して始良町となつてから二十一年余りになりました。これが認められ優良町村として、このほど全国町村会から、その功績が認められ優良町村として、このほど全国町村会定期総会の席上で、わが町が晴れの全国表彰の伝達を受けました。

これからも、みどり豊かな田園都市の建設をめざして町民協力のもとでより一層の健全な地方自治行政の発展ができますようお願いします。

これが認められ優良町村として、このほど全国町村会から、その功績が認められ優良町村として、このほど全国町村会定期総会の席上で、わが町が晴れの全国表彰の伝達を受けました。

これからも、みどり豊かな田園都市の建設をめざして町民協力のもとでより一層の健全な地方自治行政の発展ができますようお願いします。



(表彰状)

○二十年以上勤続者
表彰 (全国)
小川英博
(企画課)
地福勝己
(建昌小用務員)

表彰状

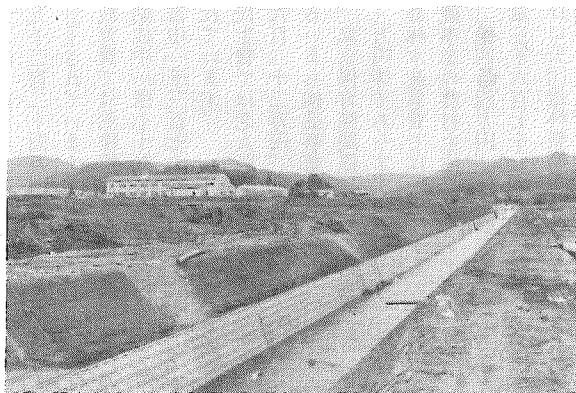
※ 優良職員として町職員の二人が町村会から表彰を受けられました。

完 成 間 近 い

県 営 ほ 場 整 備

ほ場整備事業は、農業生産の基盤である区画、形質の改善や農道用排水路の整備、農地の集団化など将来の営農に適した機械の効率的な運行や生産性の高い土地条件に整備することを目的として、昭和46年から年次的に着工され、川北地区の120ヘクタール、山下地区の48ヘクタールが整備されました。

更に昭和50年度は換地第3工区の一部（中津野、増田地区34ヘクタール）の整備に引き続き、本年度は寺師地区（19ヘクタール）が



着工され、整地は計画通りに進捗しております。

寺師地区の全体面積は約28ヘクタールとなっており、県当局は勿論のこと地元においても、单年度完成を計画していましたが、近年の総需要抑制策のため、19ヘクタールが、昭和51年度、残り9ヘクタールは昭和52年度に着工されることになりました。

又、当地区には、部落の西側を南北に県道重富→十三谷線が既設しておりますが、少量の降雨でも

県道の一部が蛇行しているために、水路の水が路面に溢れ、交通不能となることがありました。そこで地元関係者の要望により今回、ほ場整備と同時に県道が旧道道の東側に移設されることに決定されました。巾貞も10日に拡幅されることになり、すでに一部は移設されております。寺師地区内の主要道路としての利用が今後は期待されています。

「夢よ、もう一度」合同金婚式

感 激 の 中 229 組 出 席

一部の紹介

開式の始まる午前十時半には子供や孫に連れられ、なかには元気よく夫婦で仲よく会場に詰めかけられ、夫

の妻の夫婦二百二十九組が、「夢よ、もう一度」と祝福を受けました。

明るい町推進事業の一環として仲睦まじく、長生きしてきたオーランド夫婦二百二十九組が、「夢よ、もう一度」と祝福を受けました。

ヒナ節句の三日、町公民館大ホールで合同金婚式が華やかに行われました。

老人のための十一年目でダイヤモンド婚まであと一步、合同金婚式を早くから樂しみにして洋服を新調されたやさき急死された川盛太郎さん（94）キクさん（90）の夫婦で二人は結婚七



よろこびのふるさと電話



合同金婚式風景

がんばって欲しい」と励げました。参加した夫婦は校区ごとに名前を呼ばれ祝詞と記念品が贈られました。

式場舞台では東原西部落の村田貞治さん（85）カワさん（78）夫婦の模擬結婚式が行われ長年連れられた一人はしみじみと過去を振り返て感激されておられました。

この日のために特に加治木電報電話局の岡らいで「ふるさと電話」六基の受話器が設置され無料で都会にいる子供や孫に今日の模様をとてもうれしそうに語り合つておられました。

最高年齢者は、松原下部落の森川盛太郎さん（94）キクさん（90）の夫婦で二人は結婚七

婦そろっての記念写真、三三九度のかための杯を交わして遠い昔を思い出しておられました。

十一年目でダイヤモンド婚まであと一步、合同金婚式を早くから樂しみにして洋服を新調されたやさき急死された川盛太郎さん（94）キクさん（90）の夫婦で二人は結婚七

十一年目でダイヤモンド婚まであと一步、合同金婚式を早くから樂しみにして洋服を新調されたやさき急死され

た堂山部落の染川景行さん（81）の遺影は妻のミヤさん（81）に抱かれての出席で参加しました。

かれての出席で参加した人達の同情を買われました。

式において町長は「これを機会に次の結婚七十五年目のダイヤモンド婚式が開かれるよう元気で夫婦いたわり



真剣に研究検討を重ねる反省会

増産・増頭運動を展開 座談会出席率37%

始良町の農政の中体となり一月十八日から九十三部落を午前、午後に分けて四班で部落農業座談会が実施されました。

今回の座談会の主旨は「農村生活環境整備の充実」「土作り」「良質米作り」で、「畜産の増産運動」「畜産の増頭運動」で詳細に説明がありました。

農業座談会は毎年農閑期に年一回実施され町の農政の方針、対策等を

座談会が実施され

午前、午後に分けて四班で部落農業

座談会が実施され

ました。

直接農家の達と膝を交じえて研究、検討する良い機会です。

兼業農家が増加した今回の座談会では出席者は、農家の大黒柱である働き手はほとんど見られず、婦人、老人の出席が大半を占め、総体で三十七割と低調でした。

座談会で要望された各種の事項を反省会で真剣に取り組み研究、検討を重ねて改善に励んでいます。反省会での重点事項は、兼業農家の育成、地域に相応した當農体型の作成、部落内に當農相談員の配置、農家戸数の把握、野菜暦の作成等でした。

参考までに農業座談会の出席者を地区ごとに表にまとめてみました。

地区	農家戸数	座談会出席者		計	出席率
		男	女		
山田	448戸	113人	205人	318人	71%
北山	355	58	96	154	43
帖佐	1,587	186	295	481	30
重富	709	80	112	192	27
計	3,099	437	708	1,145	37

生活センター一部完成

52年度は「食品加工施設路」を計画

から二ヵ年計画で県の「農村生活環境総合整備事業の指定」を受け、総事業費二千七百三十万一千円で、改善センター、運動場、児童公園が

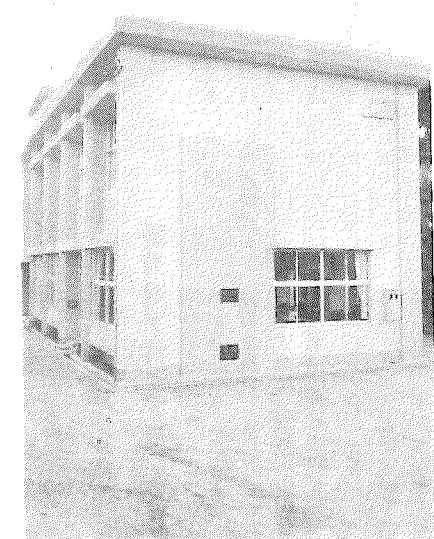
生活環境で立ち遅れている北山、木津志地区に、このほど立派な農村

生活改善センターが一部完成しました。

昭和五十二年度には食品加工室、農村集落道路等が完備される計画です。

この農村生活センターは研修室、食品加工室、婦人研修室の木造モルタル平屋建で校区の婦人会、生活改善グループ、各種の団体等の利用が図られるものと予想されます。

農村生活改善センターの完成を契機として、生活改善グループの育成強化を図り健康で豊かな暮らしの生活改善活動が推進されながらかな笑い声が聞えることを期待します。



立派に完成した北山中学校校舎

地域の念願かなう

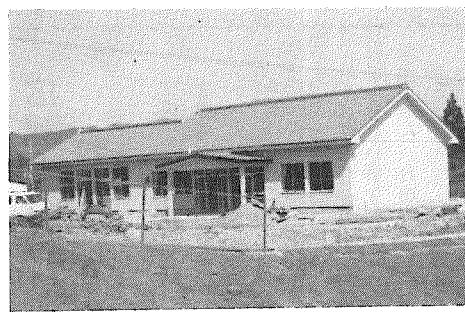
三学期も、半ば終ろうとする二月十日北山中学校鉄筋二階建校舎

北山中学校は昭和二十二年五月が立派に完成了。

立派に完成した北山中学校校舎には校舎が建築されて以来三十年を経過し、早くから「危険校舎」として、地域の人達、生徒、父兄から「早く校舎を作つてほしい」と念願していたものです。

落成した校舎は昨年七月二十三日に着工し今年の一月三十一日までの百九十三日の工期で、株式会社内門工務店が請負った普通教室三間、視聴覚室一、技術室（木工室、金工室）二、管理室（校長室、職員室、放送室、更衣室、準備室）で延床面積五百九十九平方メートルで、総工事費五千百五十四万七千円で鉄筋二階建校舎が完成了。

今回の立派な校舎完成により安心して勉強ができると生徒達は大喜びでした。



一部完成した生活センター



“根性の碑”に玉串を捧典する黒田真貴子さん

ぼくらの卒業記念

“根性の碑”建立

小学校六年間の想い出を胸に
佐　　帖　　いだいて在校生
父兄、恩師に激励の拍手に送ら

校庭で今年卒業生五十六人の将來に向けての根性の碑が在校生先生、父兄等の見守る中で卒業生代表の黒田真貴子さん(岩崎)

卒業生の作品、ウイスキー、焼酎等がカブセルの中に秘められて埋蔵されました。

部が、初出場で地元茨城代表水谷東武館に準決勝で、瓦角の力量をなしく、3対1で敗れ涙をのみ込んだ。

戦、東京代表の霞劇友会、三回戦、愛媛代表の新居浜愛剣クラブ、四回戦、秋田代表修道館を破り準優勝で強敵、地元水戸東武館と対戦したものです。善戦した建昌小学校ボーッ少年団剣道部大将下舞彰を受け、団体では敢斗賞に輝きました。出場した選手は次のとおり

建昌小学校少年團

全国大会で敢斗賞

優秀選手賞に下舞 穀爭

（先峰）二木直洋君（次峰）中野広行君（中堅）竹下健一郎（副将）重丸彰作君（大将）下舞穂君
皆さんの温かい拍手を送り全国優勝へ精進してほしいものです。

小長野ゆかりちゃんを最後に

町の別府川を堺とする南地域は人口増加に伴う学級増設が叫ばれているのと、裏腹に北地域における木津志地区では、年々人口が減少し、幼児教育が難化されています。今回、過疎化の影響を受け、

月二十五日卒園式に引き続き、小長野ゆかりちゃんを最後に十一年間の幼児学級が閉鎖されました。

この区立幼児学級は、旧木津志地区の幼稚園を対象に、二年保育を目的として昭和四十一年度四月に設立されて以来、六十六名の卒園児を送り出して幼児教育施設として

広報からの
お知らせ

▽係では、よい広報紙を作るために、皆さんからのご意見、ご要望をお待ちしています。
▽また、自分の知つていることで、町民に知らせたい事などありましたら、お知らせください。

體育指導委員功勞者・役員表彰

地域スポーツ振興に功献

地域の体育 スポーツ振興はも

安永清（仮）屋

九州地区表彰

年にわたって努力され多大の功績を修められた三人の体育指導委員が表彰を受けられたかたがたは次のとおりです。（一）は部落名記念式典で晴れの栄誉をたたえられました。

始良地区表彰

坂上 多計一(上水流)

山野部落の菅原さん

山野部落の菅原さん

菅原産業社長の菅原先生がさう（55歳）からの人です。菅原さんは地域はもとより町の教育振興に多くの功績を残されておられます。

昭和四十九年十月、道の駅を新規一階建て化が、重富中学校に完成しました折も、大工事の跡だけに校舎周辺の校庭は雨天の日など泥田のような状態で、生徒の歩行もできない状況を見かね、自ら島津興業社長へ折衝され、トラック三十五台分の碎石を自費で、運搬整地して立派な校庭に整備されました。

また、町のスポーツ振興にと各種競技の優勝旗を寄贈され、スポーツ熱を一層高揚されました。スポーツを通じて、人間教育を育成するために、校庭開放運動の推進役として活躍を行つたために、校庭開放運動の推進役として活躍され、重富中学校に、掲示板を立てたり、校庭の芝の手入れの奉仕作業に献身的な活動を行つて、地域の教育振興に生涯をかけておられます。



中宮重板掲示運動の開放校庭

寒風をつき部落内一周駅伝大会 総勢 128人参加 松原上

の想では風も子供盛り供合子、生父人技でチ

二月十五日成人の日祝日に、松原上部落は、部落民総出で寒い大に行われました。そこでつき部落内一周の会が駄伝競走大会が開催されました。参加した人達は、女子で小学校一年生から、お母さん、お父さん達まで百二十八名が一チームは十六名が十六区間十四回を八チームで競いました。競走道には、子供達の

近所のおじさん おはさん達かかづき 勢つめかけ、おしみなく声援を送つていただきました。

抜きつ抜かれつの大熱戦の末、上山Aチーム、アンカー岩元さつきさんが五十八分四十三秒でゴーリインしました。

松原上部落は戸数五百三十四戸／戸一千七百十五人の大部落のため子供達が一同に集まり親睦を図る機会が少ないとから今回の駄伝競争大会が実施されたのです。

「子供会では、毎年の行事として続けていきたい」と関係者は述べていました。子供達の親睦の輪をさらに拡げてほしいものです。

